



商品売買

使い方

- 画面をクリックするとプログラムが進んでいきます。
-  をクリックすると次のページに進みます。
-  をクリックすると前のページに戻ります。
- ページ数は右下に表示されています。

目次

1. 商品売買の仕訳
2. 商品売買の仕組み
3. 値引・返品
4. 仕入諸掛・売上諸掛
5. 前払金・前受金



今回は私が案内するよ！

今回は商品売買について説明する。

1. 商品売買の仕訳

(借方) 損益計算書 (貸方)

費用 60,000	収益 100,000
当期純利益 40,000	

商品を仕入れたときには仕入という費用、
その商品を売り上げたときには売上という収益
の勘定をそれぞれ使うんだ。

☆商品を仕入れたとき

(借方) 仕入 ××× (貸方) ×××

☆商品を売り上げたとき

(借方) ××× (貸方) 売上 ×××



1. 商品売買の仕訳

まずは商品売買の基本中の基本の仕入と売上について説明したけど、よく出てくる売掛金・買掛金についても説明するよ。

まず、買掛金について説明しよう。
売掛金は立場が逆になっているだけだから、買掛金をしっかり理解すれば十分！

買掛金とは、仕入を行うときに商品を先に受け取って、後で代金を支払うことを約束した勘定だ(いわゆる“ツケ”だ)。

【後で代金を支払う】ことからわかるように、負債に属する。

例えば1か月に何度も同じところから仕入をする場合、その都度現金を支払うのは手間がかかるよね。
そこで、まとめて後で代金を支払うことが多いんだけど、そのときに買掛金という勘定でまとめておくんた。



1. 商品売買の仕訳

例をあげてみよう。

A社はB商店から商品 ¥200,000を仕入れ、代金は掛とした。

(借方) **仕入 200,000** (貸方) **買掛金 200,000**

逆の立場から考えると、

B商店はA社に商品 ¥200,000を売上げ、代金は掛とした。

(借方) **売掛金 200,000** (貸方) **売上 200,000**

売掛金は、売り上げる際に商品を先に渡して、後で代金をもらうことを約束した勘定だ。

【後で代金をもらう】(=債権)ことからわかるように、資産に属する。



2. 商品売買の仕組み

商品売買は、「仕入」「売上」「繰越商品」の3つの勘定で仕訳する。決算のところでも説明するんだけど、ここでこのように処理する仕組みを説明しよう。

前からことある度に言っていることなんだけど、簿記の目的は

1. 企業の経営成績を明らかにすること

<1年間で、どれくらい儲かったか(または損したか)>

2. 企業の財政状態を明らかにすること

<その会社は何を、どれくらい持っているのか>

なんだ。



2. 商品売買の仕組み

1. 企業の経営成績を明らかにすること
＜1年間で、どれくらい儲かった(または損したか)＞
2. 企業の財政状態を明らかにすること
＜その会社は何を、どれくらい持っているのか＞

この視点から考えると、商品売買は

- ・商品を買ったというのは、1. に関わる
- ・在庫がどれだけあるかは、2. に関わる

ここまではいいね？



2. 商品売買の仕組み

簿記の世界では、商品についての儲けの額の計算は、アバウトに言うと

「売り上げた額」－「その原価」＝「儲け」

と計算する。

例えば、70円で仕入れたネジを100円で売ったら30円の儲け

$100 - 70 = 30$

となるんだ。

当たり前の話だよね。

注目して欲しいのは「**その**原価」というところ。



2. 商品売買の仕組み

注目して欲しいのは「**その**原価」というところ。

さっきの例で言うと、現金でネジ1個70円で10個仕入れて、100円で6個売れたとすると、

売った6個については

$$\underline{(100 \times 6)} - \underline{(70 \times 6)} = 180 \text{円の儲け}$$

売上

売上原価という

残りの4個については

$$70 \times 4 = 280 \text{円の在庫}$$

繰越商品という

となる。

10個のうち...

6個

売上原価

4個

在庫
= 繰越商品

「儲け」の
計算
に必要

「持ち物」の
計算に
必要

在庫のネジは次の年に売ることができるので、売上の原価にならずに、資産として考えられるんだ。



2. 商品売買の仕組み

これを『図』で見ると、

仕入 700	売上原価 420
	繰越商品 280

① @70円 × 10個

② @70円 × 6個

③ @70円 × 4個

図の左側が仕入の10個、右側が売り上げた分の6個と残りの4個だ。

ここまではいいね？

では次の年について考えてみるよ。



2. 商品売買の仕組み

次の年、現金で1個70円で5個仕入れ、100円で7個売った。

前の年と合わせて9個あるから、7個売することは可能だよね？
これをもう一度『図』で見ると次のようになる。

前年の残り
@70×4個

前年の繰越商品

280

売上原価

490

今年売った分の原価
@70×7個

今年の仕入
@70×5個

仕入
350

この年の繰越商品
140

今年売れずに次年度へ
@70×2個

これもいいかな？

ところで、次の図を見て欲しい。



2. 商品売買の仕組み

前年の繰越商品 280	売上原価 ?
仕入 350	この年の繰越商品 140

さっきの図で、1箇所だけ数字を隠してみたんだけど、この「？」には、いくつが入るかわかるかな？

...

...

簡単だよな？

$(280 + 350) - 140 = 490$ だ。

ここでちょっと考えて欲しい。



2. 商品売買の仕組み

前年の繰越商品 280	売上原価 ?
仕入 350	この年の繰越商品 140

このように計算したということは、売上原価は
[前年からの繰越商品]+[仕入]-[次年への繰越商品]
という計算で出てくると言うことだ！

つまり、**売上原価は仕入と繰越商品の差額で計算できる**
ということなんだ！

ここまでのかな？



2. 商品売買の仕組み

前年の繰越商品 280	売上原価 ?	売上原価 490	売上 700
仕入 350	この年の繰越商品 140	儲け 210	

9ページでも言ったように、「儲け」=売上-売上原価で、さらに売上原価は「仕入」と「繰越商品」で計算できた。

で、今何の話を長々としてきたかというと、**商品売買は、「仕入」「売上」「繰越商品」の3つの勘定で仕訳する**ということを説明してきたんだっただけ、理解できたかな。

上の**赤字**だけで**緑字の「儲け」**まで説明できているよね？
ここは「決算」で重点的に説明するけど、非常に重要だ。



2. 商品売買の仕組み

前年の繰越商品 280	売上原価 ?	売上原価 490	売上 700
仕入 350	この年の繰越商品 140	儲け 210	

正直言って、はじめて簿記に触れる人にとっては、かなり難しく理解しづらかったかも知れない。

でも、この商品売買の仕組みは決算の時につかう重要な考え方なので、すこし先走って説明しておいたんだ。

わかりにくい人は、とりあえずとばしてしまってもいいけど決算の時にもう一度見返して欲しい。



3. 値引・返品

次に、値引き・返品の仕訳について説明する。

ここからは楽になるから安心してね！

まずは値引から。

値引とは、簿記の世界では、商品に不具合があるときに値段を下げることなんだ。

だから、「今日は休日特価、パソコンを1万円値引で販売します」と電気屋さんが言ってるのは、簿記的には間違いだね。

「展示品につき、1万円値引」は正しいと言えるけど（展示していた時の汚れなどがあるから）。

売上値引(売上の価額を引くこと)と

仕入値引(仕入の価額をひいてもらうこと)があるけど、

立場が逆なだけだから、一方をしっかり理解してくればいい。

じゃあ、具体的な例を、1個70円のネジを仕入れる場面で考えよう。



3. 値引・返品

A社はB商店から商品 ¥700(10個 @¥70)を掛で仕入れた。

(借方) 仕入 700 (貸方) 買掛金 700

商品に汚れがあったため、1個あたり¥10の値引を受けた。

(借方) 買掛金 100 (貸方) 仕入 100

相殺すると

(借方) 仕入 600 (貸方) 買掛金 600

となり、10個@¥60で仕訳したのと同じ状況になることを確認！



3. 値引・返品

次に返品について説明するよ。

値引が理解できた人には簡単だ。

返品は、その分だけ取引がなかったのと同じなので、
値引と同じように逆に仕訳をするんだ。

具体的に見た方がわかりやすい。



3. 値引・返品

A社はB商店から商品 ¥700(10個 @¥70)を掛で仕入れた。

(借方) **仕入 700** (貸方) **買掛金 700**

仕入の個数に間違いがあり、2個返品した。

(借方) **買掛金 140** (貸方) **仕入 140**

相殺すると

(借方) **仕入 560** (貸方) **買掛金 560**

となって、8個@¥70の仕訳と同じになるんだ。



4. 仕入諸掛・売上諸掛

次に、仕入諸掛・売上諸掛について説明する。

諸掛とは、読んで字のごとく

仕入諸掛:「仕入の時にかかるいろいろなお金」

売上諸掛:「売上の時にかかるいろいろなお金」

ということで、どちらも費用だ。

基本的には商品の発送に関わる費用と置いていけばいい。

どうして費用か、イメージできるようにしてね。

例えば、「今なら送料無料！」という商品がありけど、
送料が無くなったわけではなく、売り手が負担しているだけだね。
この辺の処理について考えていく。

まずは仕入諸掛の処理を見ていこう！



4. 仕入諸掛・売上諸掛

仕入諸掛を考える前に、
仕入れるときにかかった送料はどうなるのか？
のパターンを考えてみよう。

1. 自分が負担する
 2. 相手が負担だけど立て替える
 3. 相手が負担して払った
- の3通りがある。

そのうち、「3. 相手が負担して払った」場合は、
普通の仕入の仕訳になるだけだから、ここでは説明しないよ。

まず、自分が負担する場合について具体例を挙げてみていくよ

結論から言うと、仕入諸掛は仕入原価に含めて計算するんだ。
なぜかと言えば、その送料も仕入れるために必須のお金だからだ。



4. 仕入諸掛・売上諸掛

【仕入諸掛を負担するパターン】

自分の立場で考えてみて欲しい。

全く同じタラバガニが

A. 10,000円で送料無料

B. 9,500円で送料が1,000円

だったら、どう考えて、どっちが安いと考える？

10,000円と10,500円を比べて、Aを選ぶよね？

10,000円と9,500円を比べてBがお得とは考えない。

つまり送料の1,000円分は買うのに必要だったわけだから、**仕入の額に入れて計算するのが適当**ってことになる。



4. 仕入諸掛・売上諸掛

【相手が負担する仕入諸掛を立て替えるパターン】

A社は仕入先のB商店から商品¥150,000を仕入れ、代金は掛とした。仕入の際に当店が負担する引き取り運賃¥10,000円は小切手を振り出して支払った。

(借方)	仕入 150,000	(貸方)	買掛金 150,000
	買掛金 10,000		当座預金 10,000

送料を立て替えておいたので、その分【相手に払わなければいけないお金＝負債の買掛金】を減らしているんだ。

このときは借方10,000の買掛金は立替金勘定を使うことがある。【立て替えてあげている＝あとでその分もらえる】わけだから、立替金は資産の勘定だ。



4. 仕入諸掛・売上諸掛

次は、売上諸掛の方だ。

得意先への送料などを負担しなければならない場合、その代金は費用とする。

こういふ、『売上から引いてはダメなの?』と考える人もいるだろう。

でも、会計のルールで、異なる収益と費用を相殺してはいけないというものがあるんだ。

そもそも、相殺していいんだしたら、「仕入」と「売上」も相殺していいことになってしまうよね?

そうすると、実態を反映しなくなってしまうんだ。

A: 売上1,000,000、費用990,000で、10,000儲かった

B: 売上20,000、費用10,000で、10,000儲かった。

もし相殺していいんだしたら、AもBも同じってことになってしまうけど、これを同じと見なすのはおかしいよね?



4. 仕入諸掛・売上諸掛

そういうわけで、売上諸掛は別に**発送費**という費用勘定を使うんだ。
具体的に見ていこう。

B商店は得意先のC商事に商品 ¥300,000を売上げ、代金は
掛とした。なお、当店が負担する運賃 ¥10,000は現金で支払った。

(借方)	売掛金	300,000	(貸方)	売上	300,000
	発送費	10,000		現金	10,000

なんとか理解できたかな？



5. 前払金・前受金

商品を仕入れる際に、注文時に前もって代金の一部を支払うことがある。

いわゆる“手付金”だね。
最後にこれを説明するよ。

手付金を支払ったときには「前払金」という資産勘定
手付金を受け取ったときには「前受金」という負債勘定を使うんだ。

注意してほしいのは、あくまで手付金ということで、
商品の受け渡しが行われていない状態だということだ。

簿記において売買が成立したというのは、商品とその対価（現金、
売掛金、受取手形など）の交換をしたときだから、まだ商品を受け渡
されていない以上、まだ仕入や売上の仕訳をするわけにはいかない。
ちょっと頭の隅にでも入れておいてね。



5. 前払金・前受金

前払金と前受金は、例によって買い手と売り手で立場が逆なだけなので、どちらかをしっかり理解しておけばいい。

ここでは前払金のバージョンから見ていこう。



5. 前払金・前受金

もし気が変わって「前払いしたお金返して」といったら返してもらえるお金なので、資産

①A社は仕入先のB商店から商品 ¥150,000を注文し、手付金として ¥15,000の小切手を振り出した。

(借方) **前払金 15,000** (貸方) **当座預金 15,000**

②A社は仕入先のB商店から注文しておいた商品 ¥150,000を引き取り、注文時に支払った手付金15,000円を差し引き、差額をB商店宛の約束手形を振り出して支払った。

(借方) **仕入 150,000** (貸方) **支払手形 135,000**
前払金 15,000

理解できたかな？

①と②を合わせると、前払金が相殺されることに注意して欲しい。とにかく、問題をよく読んで使う勘定を考えよう。



5. 前払金・前受金

次の前受金は売る側に立場が変わるけど、考え方は全く同じだ。

①B商店は得意先のA社から商品 ¥150,000の注文を受
手付金として ¥15,000の小切手を受け取った。

(借方) **現金 15,000** (貸方) **前受金 15,000**

もし気が変わって
「前払いしたお金
返して」と言われ
たら返さなければ
ならないお金なの
で、負債。

②B商店は得意先のA社から注文しておいた商品 ¥150,000を
受け渡し、注文時に支払った手付金15,000円を差し引き、
差額をB商店宛の約束手形で受け取った。

(借方) **受取手形 135,000** (貸方) **売上 150,000**
前受金 15,000

逆になっただけだから、理解は楽だと思う。



まとめ

さて、今日のまとめだ。

1. 商品売買の仕訳
仕入は費用、売上は収益の代表的な勘定
2. 商品売買の仕組み
仕入・売上・繰越商品の3つで処理する
3. 値引・返品
普通の仕入・売上の反対の仕訳をする
4. 仕入諸掛・売上諸掛
仕入諸掛は仕入に加算、売上諸掛は別に発送費などの費用計上
5. 前払金・前受金
前払金は資産、前受金は負債で処理。相殺されて消える。

これを見てやった内容が思い出されればOK！
後はテキストでしっかり復習しよう！



終わりに

お疲れ様でした。

商品売買は商売の基本だから、特に仕組みを理解することは簿記でとても重要だ。

「決算」でもう一度扱うけど、仕入・売上・売上原価の3つで処理する方法をイメージできると、本当に後が楽だから、一度わからなくても、テキストと比べながら、理解するように挑戦してみてください。

それでは！



制作者情報

- 簿記フラッシュ-日商簿記3級
<http://boki3.source-of-information.com/>
これまで作成したフラッシュと内容を公開しています。
- ご意見・ご感想等ございましたら、
info@source-of-information.com
までお寄せ下さい。